

地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

## 理念

130年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

## 基本方針

### 患者中心医療

患者の人権と  
意思を尊重します

### 患者診療3本柱

がん・救急・  
予防医療を中心に  
医療機能の  
充実を図ります

### 完結型医療

地域の医療機関  
との連携を行い  
安心できる医療の  
展開を行います

### 社会貢献

災害医療派遣・  
医療情報公開・  
医療ボランティアの  
活動を行います

### 医療人育成

医療に携わる  
喜びが持てる  
医療人の育成を  
行います



## 竣工に向けて～病院建設進捗状況～



通路図



内視鏡センター受付前



本館棟エスカレーターを2階に上がると、窓向こうに工事の様子が目に入ってきます。旧棟の解体工事が行われ、これから11月竣工に向けて駐車場等の外構整備が進められています。工事完了に先駆けて、9月20日から病院敷地の東側に歩行者通路ができました。皆さまには大変ご迷惑をお掛けしておりますが、駐車場からの道のりを少しばかりですが改善できることと思います。

また同時に、工事区域西側では、本館棟から放射線治療棟へ続く通路を建設しています。3階建ての連絡通路は1階で放射線治療棟につながり、本館棟側にカフェ、2階に化学療法室、3階に研修室を増築します。

西棟1階では内視鏡エリア半分の工事 step 1 が終了し、本館棟から西棟に渡ると正面に進んだところに内視鏡の受付ができました(9月24日～)。本館棟から内視鏡へのアプローチが近くなり、また分かりやすくなりました。西棟1階はこのあと工事 step 2 に入り、残り半分の改修を経て11月に完成予定です。

その他、秋の竣工まで病院内各所で工事や改修が行われ、ご来院ご入院の皆さまには大変ご不便とご迷惑をお掛けいたします。病院のよりよい環境を目指して、安全に工事を進めております。全工事終了まで、いましばらくのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

情報企画課 那須 智子

## 放射線機器紹介

### 「平面検出器 (Flat Panel Detector : FPD) 搭載型 X 線 TV 装置」

画像診断センターでは、新棟改築に伴い放射線機器を最新の機能を持つものに更新しました。その中の一つ、平面検出器 (Flat Panel Detector : FPD) 搭載型 X 線 TV 装置です。従来の装置では、X 線を用いて体の透視像をリアルタイムに見ながら検査 (胃・大腸造影検査、尿路造影検査、脊椎腔造影検査、胆道造影検査) を行い、また骨折や脱臼した場合に骨を元通りにする時 (徒手整復) や、内視鏡検査と併用して検査をする時にも使用していました。

今回、導入した装置はトモシンセシス (断層撮影) とスロットスキャン (長尺撮影) という最大の特徴である



両膝のトモシンセシス  
画像  
立位にして両膝に重力  
負荷をかけた状態での  
観察。

特殊撮影が行えることです。このトモシンセシスは人工関節周囲・骨折と欠損の評価や後縦靭帯骨化症 (OPLL) などの整形領域に有用とされており、また 1 回の撮影で数十枚の連続断層画像によるボリュームデータが得られる画像技術を使い、短時間で被ばくも少なくすむ撮影利点を持ってあります。スロットスキャンは、装置の寝台に立った状態あるいは寝た状態で検査を行い、短い時間で頸椎から尾骨までの全脊椎、股関節から足首までの下肢全長を撮影し、1 枚の合成画像として表示します。脊椎彎曲症、下肢全体の診断などに利用されます。その他、胸部領域や頭頸部領域などに幅広い検査領域にも利用ができます。このようにデジタル化され様々な撮影技術・画像処理を施すことによって医療被曝を低減しながら高画質化をおこない、画像診断能や検査効率を格段に向上させ、疾患の早期発見、早期治療およびより専門的な治療に威力を発揮します。

詳しいお問い合わせは画像診断センターまでお願いします。

臨床放射線技師 丸尾 時雄

## イーバックチェアー (階段避難車) 導入

新病院への引っ越しに伴い、各病棟にイーバックチェアー (Evac+Chair) が導入されました。イーバックチェアーとは、エレベーター等が使用できない非常時に、身体が不自由な方や歩行が困難な方々を、階段を利用して安全、円滑、迅速に建物の外へ避難させることができる階段避難車です。

これまで当院では、災害等非常時の患者搬送は主に担架を使用していました。イーバックチェアーは、移送者と一人の補助で避難させることができるため、担架では 4 人で一人の患者さんを搬送するのにに対し、2 人で一人の患者さんを避難させることができます。



また、イーバックチェアーには補助輪が備え付けられており、平面は車椅子と同じように搬送することが出来ます。階段を下りる際は、補助輪を格納してゴムローラーベルトで階段を円滑に滑降します。

今回、当整形外科病棟では、災害等の際いつでも対応できるよう訓練を行いました。まず、実際に搬送される患者となって体験してみましたが、平面を移動するときには、車椅子に移乗している時のような感覚で安心できたのに比べ、階段を下る際は、一段目がやや前傾姿勢となっていた為、怖く感じました。回数を重ねるごとにバランスよく寝た姿勢で下ることで最初の恐怖感も減り、安心して身を任せることができました。次に、搬送者の立場になり練習しました。最初は、力加減があまりつかめず、振動が多く、恐怖感を与えてしまいましたが、何回か繰り返し練習することで、スムーズに避難させることができるようになりました。

今回訓練を行ったことで、患者さんの立場にも立つことができ、いい経験になりました。実際災害が発生したときに、安全に患者さんを避難させることが出来るように、繰り返し訓練していきたいと思えます。

5 階病棟看護師 門口 元子

## 臨床研修医挨拶



一年前、大学病院とは全く異なる雰囲気やシステムに不安もありましたが同僚やスタッフに恵まれ、すぐに溶け込むことが出来ました。

地域の方々から、病気に罹った時に何とか受診したいと思われる、そのような病院で働けたことを誇りに思っています。

もし研修先の病院を迷っている人がいたら必ずこちらの病院を勧めたいです。あの病院で研修できて良かったと。一年という短い期間でしたが色々な経験を積み、成長することが出来ました。

これからも様々な病院で経験を積むことになると思います。いつか医師として再びこちらへ戻って来られることを願っています。

どうもありがとうございました。数年後またよろしく申し上げます。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 岡留 一雄



昨年の9月末に人吉に来たことが、この間のように思い出されます。そしてついに、今では当たり前に住んでいる人吉から出ていく時期になったのだと非常に寂しく感じています。

人吉では大学で経験しなかった、人生初の当直・救急を経験し、今後の人生の大きな糧になったと思っています。また、来たその日から皆様に優しく接して頂き、迎え入れてくださったことを非常に感謝しています。

今後、ここで学んだことを生かしつつ、さらに努力し成長したいと思っています。そして、またどこかでお会いする機会があると思いますが、その時は今より少しでも成長した姿をお見せできたらと思っています。

短いようであつという間の1年間でしたが、非常に楽しい研修生生活が送れました。ありがとうございました。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 西村 祐紀



いつの間にか秋になり、人吉に来て一年がたつてしまいました。何度もうなされて起きた最初の当直が、ついこの前の出来事のように思えます。

人吉総合病院に来てまず印象的だったことは、皆さんの挨拶でした。先生、看護師さん、警備員さん、掃除のおばちゃん。皆さんが本当にあいさつを通して声をかけて下さり、いつも元気をいただいていた。これが人吉総合病院のよい雰囲気を作っているものなのだと思います。そして、病院のどこに行ってもまだ何も分からない研修医の私を温かく迎えてくださいました。自分がやりたいと思えば、必ず誰かがサポートしてくださり、そんな環境で1年間も研修できて本当に幸せでした。もう人吉を離れないといけなと思うと、本当に寂しいです。ここで学んだことを今後活かして一人前の医師となれるよう努力していきます。そして、いつかまた人吉総合病院で働く機会がもらえればと思います。

みなさん1年間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 井手尾 勝政



昨年の10月に人吉総合病院に来て早一年、とうとうこの日がやってきてしまいました。初めての救急外来当直で震えていた事が昨日の事のように思い出されます。一年間を振り返るとここでは書ききれない程の出来事がありました。確実に医師としての成長を得ることができたと思っています。指導医の先生をはじめ、スタッフの皆さんには大変お世話になりました。

いつも優しく笑顔の皆さんに助けられ、仕事のみならずプライベートまで大変楽しく過ごさせていただきました。人吉を去るのは大変寂しい気持ちで一杯ですが、また一緒に働ける機会があればと思っています。一年間本当にありがとうございました。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 山下 晃平

## 太陽光発電が設置されました

太陽光発電設備が平成25年7月26日より稼働始めましたのでご報告致します。

現在、病院耐震整備事業工事で関係者の皆様には、大変ご迷惑をお掛け致しております。

今回の工事で太陽光発電設備が導入されました。設置場所は、リハビリ・予防医療センター棟屋上に京セラ製の産業用太陽光発電システム、太陽光パネル48枚、発電容量10Kw（1枚発電容量208.4w×16直×3並列）

パワーコンディショナ容量10Kwで交流200vの電気に変換し院内で使用します。発電容量は、100



vに換算するとおおよそ、リハビリ・予防医療センター棟の照明を賄う程の発電量です。リハビリ・予防医療センター棟1階エレベーター近くに太陽光発電計測監視装置の画面を現在の発電状況が見られるよう42インチの液晶ディスプレイとして設置されましたので、興味のある方は、見てみてください。

今回の耐震整備事業工事も終盤に入りましたが、もうしばらく関係者の皆様方にはご協力並びにご迷惑をお掛けすると思っておりますが宜しくお願いいたします。

施設課 村山 純一

## リハビリテーションセンターが引っ越しました！

病院新築に伴って、リハビリテーションセンターも新しく明るく開放感のある研修棟2階へ移転しました。理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーションを同じフロア内で提供できるようになりました。床材も籐の素材のようで、落ち着いた雰囲気の中で治療ができます。男女各更衣室にはシャワーもあり訓練で汗を

かいても大丈夫です。在宅へ向けた家事用設備、各種日常生活動作用設備等が配置され、脳血管疾患等リハビリテーションⅡからⅠへ施設基準も上がります。

疾患や手術後の急性期リハビリテーションを中心に地域のリハビリテーション関連施設と連携を取って頑張ります。

リハビリテーションセンター 塚島 靖博



理学療法



作業療法



言語聴覚療法



心臓リハビリテーション

## 「人吉球磨さわやか大学」定例会 in 人吉総合病院

8月19日、当院にて「人吉球磨さわやか大学」8月定例会が開催されました。

「人吉球磨さわやか大学」とは、「幅広い学習と新たな交流の機会を提供することによって、高齢者の方々の健康と生きがいづくり、そして社会参加の促進を図ると

もに、高齢社会のリーダーとなっていただくこと」を目的として活動されている団体です。(熊本さわやか長寿財団 HP 一部抜粋)

今回、参加された方より感想を頂きましたので掲載致します。

健康保険人吉総病院での定例講座、ありがとうございました。

「人吉球磨さわやか大学」では8月の定例学習会で改築中の人吉総合病院を会場として、「健康にすごそう。」をテーマとして、学ばせていただきました。新装となった病院の入り口（玄関は未着工）から大講堂まで案内される間、静かで落ち着きのある色合いの雰囲気と落ち着いたスタッフの対応に感動しました。

まず、大講堂では、副院長先生によるご講話がありました。病気にならないために、日頃の健康的な生活習慣や健康診断の必要性、総合病院の役割についてということで、まずはかかりつけの病院・診療所での広い視野からの身体の状態を検査し、必要があれば総合病院のよう

な専門医等による検査・治療するという関連を学びました。また、総合病院では、救急医療・災害等に対応する役割もあることも学びました。

最後には、移動が速く静かなエレベーターによって、スタッフの案内のもと、施設を見学しましたが、単に医療だけでなく、患者の方の安心・安全のための施設であり、更に救急医療に備えたヘリポートを備えており、その窓から見える球磨川の流れが一段と穏やかに見え、多くの方の健康回復のための施設であることを実感しました。ありがとうございました。

人吉市球磨 さわやか大学事務担当 永井 陸雄



## 救急フェア開催

9月8日に、人吉下球磨消防本部で「救急フェア2013」を開催しました。

当消防組合では平成7年から毎年9月9日の「救急の日」にちなみ地域住民に対し、救急医療及び救急業務への正しい理解と認識を深めることを目的に、庁舎を開放し、人吉医師会、人吉総合病院の協力のもとで「救急フェア」を開催しています。

メインステージでは、熊本県出身タレントの片山リナさんの司会で、人吉総合病院の瀬戸雄飛先生の「知っておきたい妊娠中のトラブル」の講演に始まり、中原学童クラブによる和太鼓、一武保育園園児によるダンス、ひよっこおどり愛笑会によるショー、Energy Breathによるエアロビクス、抽選会が行われ、子どもから大人まで大いに盛り上がりました。

屋内では、心肺蘇生法・AED・子供の発熱、痙攣などの応急手当体験コーナー、災害派遣医療チームDMA T隊の紹介、救急や防災をテーマとした子供達のポスター・書道展示などがあり、実際に応急手当を学ぶことができ、子供達の真剣な姿が印象的でした。



また、屋外では八代広域行政事務組合消防本部の災害支援車Ⅰ型や赤バイなどの展示、はしご車の試乗体験、ロープ渡りや煙・放水体験、かき氷の無料提供などがあり、はしご車試乗体験は、子供達に大人気で順番を待つ長蛇の列ができました。

今回、約1,500名という来場者を記録し、盛大に終わることができました。

今後も地域住民の救急・救命に対する意識啓発に努めていきたいと思えます。

人吉下球磨消防組合 企画教養課 尾鷹 美香



## ハワイ研修を終えて



8月19日、20日の2日間にわたってハワイ大学医学部 SimTiki シミュレーションセンターで行われたシミュレーション研修に、私を含め研修医6名で参加させていただきました。コースの内容は昨年参加された研修医の先生方からお話を伺っていましたが、どんな研修になるのだろうと期待で胸がいっぱいでした。

ハワイ大学医学部の研修施設は宿泊先のホテルからタクシーで15分程走ったところにあり、初日・2日目ともにJA 広島総合病院の後期研修医の先生方4名と合同でシミュレーション研修を行いました。研修では2、3グループに分かれて、手技の技術向



上を目的とした中心静脈カテーテル挿入や気管挿管などが行われました。また、One Night On-call と題された研修では、バイタルがモニタリングされる人形を用いて、夜間に経験しそうでいくつかの症例の再現がなされ、どのように対応すべきなのかを討論しあったりしました。初日は情報伝達不足や、連携がうまく取れずにできないことばかりが目についた一日でした。しかし症例検討では、できなかったことばかりを振り返るのではなく、「できたこと、うまくいったことは何か」を考えることが大切だと講師の方々から教わりました。症例を終えるたびに改善点をグループ内で話し合っ、その甲斐あって2日目の研修では比較的スムーズに協力しながらグループワークを行うことができました。

2日間のハワイ大学での研修を終えて、技術の向上はもちろんですが何よりチーム医療の大切さを学びました。今回の研修に参加できる機会を得られたこと、また私たちが研修に行っている間に救急外来を守り抜いていただいた先生方に感謝します。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 秋山 貴彦

## 第2回 復興支援こどもキャンプ in 人吉・球磨 ボランティア

『第2回復興支援こどもキャンプ in 人吉・球磨』が開催され、福島県の小学生30名が招待されました。ラフティング・クラフト体験や地元小学生との交流があり、子供達は元気いっぱい活動を楽しんでいました。活動中、お友達の仲間に入れず泣いている女の子に付き添う事がありました。自分なりに声をかけましたが上手くいかず、渡辺科長がその子にずっと寄り添ってくれました。私では、まだまだ人生経験が足りず駄目だなとその時はそう思いました。しかし、その子の両親は震災で亡くなっており、電話で対応した「お母さん」は義理のお母さんであった事を後から知りました。泣いている時に『ママに少し似ている』と言ってくれた事が勢いよくフラッシュバックしました。その一言にはもっと深い思いがあったはずだと、『サイン』だったと本当に後悔しました。トラブルに対しても「子供だから…」とか先入観をもって接してはいなかったか？と自問自答を繰り返しました。私に足りなかったのは人生経験だけではなく、短い時間でもちゃんと向き合う姿勢だったと思います。『一期一会』という事を胸に留めて、患者様やご家族としっかり向き合っていくと改めて思いました。また、子供達の危うさ、生きる力(=生活力)の弱さも垣間見る事ができました。「自分で考え、行動する事」「炊事や洗濯など、身の回りの事」「周囲の事も考えながら自分の思いを伝える事」がどのくらいできるのだろうか？一人の親として真剣に考えました。単に与えるのではなく、

自分の力でやり遂げる力をつける為のサポートをする事が重要で、子供達が生きる力(=生活力)をつけることが大きな意味での防災につながるのではないかと感じました。この活動に対しても賛否両論あり「偽善者」と非難される

事も多いそうです。しかし「1人ひとりの小さな力、そして行動が子ども達に笑顔と希望をもたらす事ができるはず」との信念を持ち、行動に移し、継続していく為に努力をし続ける代表をはじめとするメンバーを私は尊敬します。子供達にとって、自然との触れ合いや様々な体験も貴重だと思います。しかし、私は熱い思いをもった大人達との出会いこそが、将来大きな力になっていくのではないだろうかと思えます。マイナスをプラスに変える力を共に育んでいきたいと感じる事ができた体験です。当院のスタッフの皆様にも募金などご協力いただき、本当にありがとうございました。今後ともご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



ICU 看護師 坂本 恵子



笑って健康促進！  
第92回 翔幻会開催！

平成二十五年九月分開催分の句をご紹介します。  
どうぞご鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十五年九月分

- 席譲りよろめいているおじいさま
- 指定席2枚とつたが彼女来ぬ
- サングラスの妻とは少し距離おいて
- 指定席買ってバラバラ自由席
- 戴いたオカズの上に桔梗添え
- 暗算が不得手になつて指かりる
- おもてなし煮めと豆と彼岸花
- 川の字は六十の娘中にして
- 青空に稲穂と映える彼岸花
- 音きいて雨とわかれば朝ねぼう
- また一つ記憶こぼれる老いの坂
- 口だけは元気でひざにサポーター
- ダイエットいつからやるの今でしょう
- 淋しさと疲れを残し孫帰る
- 柿の色秋が来たよとおしえてる
- マスターズ二秒ちぢめた百二才
- 雨なくてグリーンカーテンうなだれて
- 炎天にかこつけ今日も高いびき
- 病棟の9階からの景色最高だ
- 病院に売店あると便利だね
- あかぎれて故郷の母の手を思つ
- ひまわりで元気をもらおうがんばるぞ
- かがみ見てつかれた顔にはつとる

(在宅介護中)

次回も第四木曜日に開催となります。平成二十五年十月二十四日(木) 十四時から本館二階図書室で開催致します。  
ご自由にご参加下さい。投稿のみの参加もできます。院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

9月のフレッシュマンセミナー

当院では毎週木曜12時～ 入職3年以内の職員が、興味のあることなど思い思いにスライドを作成して発表する、フレッシュマンセミナーを開催しています。今回は9月に発表された内容についてご紹介いたします。



- 9/5 赤池 和則 看護師 「くまモンってなにもん？」
- 9/12 宮原 俊介 臨床工学技士 「クラゲについて」
- 9/19 日當 彩子 看護師 「韓国旅行記」
- 9/26 西山 竜道 看護師 「風の谷のナウシカの原作紹介と映画との違い」



韓国旅行

9月6日から8日の2泊3日間、院内旅行で韓国に行ってきました。12名と大人数であり、初日は全員で焼肉を食べに行き、一緒に行動できてとても楽しかったです。また、先輩方と韓国の足マッサージを体験しました。2日目は自由行動であり、先輩方と韓国の地下鉄を乗り継いで、買い物を楽しみました。その日の夕食は有名な焼肉屋さんへ行く予定でしたが、急遽行けなくなり、困っていた時に、たまたま通りかかった韓国の方が別の焼肉屋を紹介して下さい、おいしい焼肉を食べることができました。親切な韓国の方のおかげでおいしい焼肉を食べることができ、本当に良かったと思います。この旅行を通して、韓国は日本と変わらずとても過ごしやすい所であり、日本語を話せる韓国の方が多いため、韓国語が話せなくてもコミュニケーションが図れるので旅行には最適な場所であると思いました。またいつか個人的に韓国に行こうと思います。新人は私だけでしたが、院長や他病棟看護師、さまざまな部署の方と一緒に行動して楽しむことができ、良い思い出となりました。



ICU 看護師 田山 志穂

新任紹介



おがた 尾方 かおり (5階西病棟・看護師)  
最終卒業校：八代市医師会立 八代看護学校  
趣味：読書、バドミントン  
好きな食べ物：梨

自分の性格：若干負けず嫌いなどところがあります  
自分のコマーシャル：よろしくをお願いします

9月の勉強会報告

9月12日(木)第72回消化器カンファレンス

1. 「技師の誤飲を契機に発症した食道穿孔の一例」  
人吉総合病院 臨床研修医(協力型) 秋山 貴彦先生
2. 「予防医療センターで経験した早期胃癌症例の検討」  
人吉総合病院 消化器内科 高野 理恵子先生

9月13日(金) Nissay-IT 特別セミナー in 人吉

1. 「電子レセプトからみる医療提供体制と受療動向」  
北海道大学病院 地域医療指導医支援センター  
センター長 准教授 藤森 研二先生
2. 「地域医療ビジョンについて」  
産業医科大学 公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉先生

9月17日(火)第50回人吉・球磨最新医療研究会

「食道癌に対する集学的治療の展開」  
千場大学大学院医学研究院 先端応用外科学  
教授 松原 久裕先生

